



Pyramix 25th Anniversary Release Notes



Pyramix 25th Anniversary の新機能:

New Keys and Packs!

Pyramix 25th Anniversary には、新しいKeyファイルが必要です。Merging は、Software Packを新たに整理しました。

New project format

Pyramix 25th Anniversary で作成されたプロジェクトは Pyramix v12.0 と互換性がありません。v12.0上で Pyramix 25th Anniversary で作成されたプロジェクトを開くためには、Pyramix 25th Anniversary でSave Specialを使用して “v12.0” として保存してください。

New: Native Audio Engine multi-threading support.

Pyramix Native Engine が、マルチスレッド アーキテクチャ を使用することで改善されました。

ネイティブ オーディオ エンジンは、複数のスレッドを使用してプラグインとオーディオ入出力を処理します。

オーディオエンジンが使用するスレッドの数は、スレッドの数により決定されます。ただし、Pyramix 25th Anniversary ベータサイクルの期間中は、レジストリキーを変更することにより、マルチスレッド エンジンの設定を変更することができます。

MassCore VST distribution enhanced

MassCore での VSTのパフォーマンスと負荷分散を改善しました。

Video playback engine revamping.

ビデオ再生のパフォーマンスが改善され、様々なフォーマットのビデオ再生でパフォーマンスの向上が図られました。360解像度2 x FPS形式の再生も大幅に向上します。

SRC playback engine revamping.

Pyramix 25th Anniversary 再生エンジンでは、リアルタイム サンプリングレート変換のパフォーマンスが改善されました。

New QLM Cloud bases security

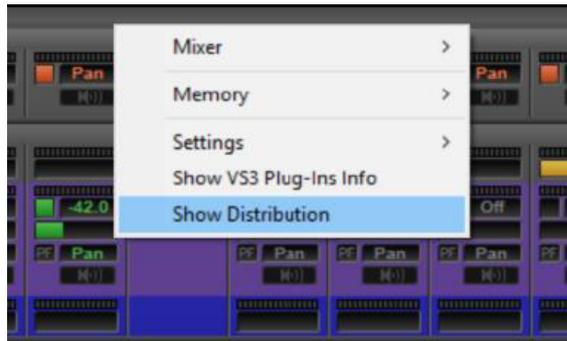
SafeNet USBキーを使用しない、新しいソフトウェア ーオーソライズが行えるようになりました。



New. Dialog window for Plugins and distribution information

このダイアログは、ユーザーが使用中のプラグインの負荷と分布を理解するために使用できます。過負オーバーロードしている場合、オーバーロードがどこから来ているのかを簡単に特定できるようになりました。

このダイアログには、Pyramixミキサーをマウスで右クリックし、“Show Distribution”を選択するとアクセスできます。



▲ VS3/VST FX Distribution

Strips	Buses	#	Name	VS3 FX	VST FX	Core	CPU
Core 0	11.22%						
Core 1	8.17%						
Core 2	5.13%						
Core 3	3.00%						
Core 4	2.58%						
Core 5	2.29%						
Core 6	0.00%						
Core 7	0.00%						
		1	Kick	0	0	N/A	N/A
		2	Snare	1	0	5	0.14%
		3	Hi_Hat	0	1	1	8.17%
		4	Tom1	0	1	5	0.19%
		5	Floor	0	1	2	5.13%
		6	OHL	0	1	5	0.40%
		7	OHR	0	0	N/A	N/A
		8	Bass	2	0	5	0.21%
		9	Vocal	1	0	5	0.15%
		10	DIRECT	0	0	N/A	N/A
		11	GuitRtm1	1	0	5	0.16%
		12	GuitRtm2	1	0	5	0.14%
		13	Lead1	1	0	5	0.14%
		14	Lead2	1	0	5	0.18%
		15	Audio 1	1	0	5	0.15%
		16	Audio 2	1	0	5	0.16%
		17	Vocal1	0	1	5	0.14%
		18	VocalGuide	0	0	N/A	N/A
		19	BackV 1	1	0	5	0.09%
		20	BackV 2	1	1	0	11.22%
		21	Gone 1	0	0	N/A	N/A
		22	Aux Group	0	1	3	3.00%
		23	AG#1	0	2	4	2.58%

Distribution ダイアログは、以下の表示を行います：

- 使用できる Core
- Strips と Auxes
- VS3 FX
- VST FX
- Coreのアサイン情報
- CPU load



- Buses (Tab)

Plugin Engine に関する注意 :

パフォーマンスの最適化のため、プラグインのCoreへの分散は自動的に行われます。Stripsプラグインの合計Core負荷が最初に処理され、次にBusプラグインの合計Core負荷が処理されます。エンジンはこれら2つの処理タスクを順次実行します。Stripsプラグイン側の高Core負荷は、バスプラグイン側の高Core負荷と合計されません。

負荷は別のCoreへ移すことはできません（ミキサーの再構成が必要）。プラグインのエンジンに必要な処理を変更することはできません。

プラグイン ディストリビューション のCoreリーディングについて :

プラグイン自体の継続時間を測定して表示しています。（オーディオフレームの処理時間） / （プラグイン自体の持続時間） * 100 = （単一のプラグインのロード）となります。次に、複数のプラグインを計算し、それらの合計を計算しています。

以下の表示とは異なります。

Pyramix CPU reading:

Pyramixの下部に表示されるCPU負荷は、Windowsタスクマネージャーで計算されたCPU使用率ではありません。NativeでのCPU負荷は、（オーディオフレームの処理時間） / （1フレームの期間） * 100のように計算されます。これは、1つのオーディオフレーム期間での処理に使用される時間の割合を表しています。このインジケータは、処理時間中のCPUストールを考慮に入れているため、CPU使用率よりも有用です。MassCoreベースのシステムでは、CPU : 負荷インジケータとVST : コア負荷インジケータが表示されます。詳細については、Pyramixユーザーマニュアルを参照してください。

Windows タスクマネージャー :

Windowsでは、タスクマネージャーのCPUタブで、CPU時間をCPU容量のパーセンテージとして測定し表示しています。

これらの3つは、同じ測定値を期待できません。



Dolby Atmos Connect Support

Atmos Connect

- Dolby Atmos Renderer との動作が可能です。
- 現在、"Dolby Atmos Mastering Suite" および "Production Suite" のみをサポートしています。
- バージョン3.4.0 が推奨バージョンです。
- "Atmos RMU" はサポートされていません。

Atmos Connect の操作 :

- Pyramix, Ovationミキシングコンソールを右クリックし、Settings > Atmos Connect...メニューを開きます。
- ダイアログが開いたら "Atmos Mastering" または "Production Suite" を実行しているコンピューターのIPアドレスを入力します。
- "Connect" ボタンをクリックします。
- ログウィンドウに、次のように表示されます : 192.168.3.99:53039->192.168.3.89:4001 : connected

Audio Connection:

- 次に、ミキシングコンソールの最初の128個の出力を次のいずれかの方法でレンダラーにルーティングしてください：
 - MassCoreまたはRAVENNA ASIOをHapi / HorusのMADIから、レンダラーを実行しているコンピューターのMADIインターフェースに接続する。
 - Pyramix / Ovationを実行しているPCにDanteカードをインストールし、レンダラーを実行しているコンピューターのDanteインターフェースに接続する。
 - レンダラーを実行しているコンピューターにRAVENNA / AES67ドライバーをインストールし、直接MassCoreまたはRAVENNA ASIOに接続する。
 - 現在ドルビーは、上記の最初の2つの方法とMacOSバージョンのレンダラーのみ認定しています。
 - Mergingでは、新しいバージョンの Merging Audio Device ドライバーが実行されているレンダラーのWindowsバージョンで3番目のソリューションをテストしました。このソリューション（現時点ではベータ版のみ）を行いたい場合は、お問い合わせください。

Beds and Object mapping:

- Dolby Atmosレンダラーに接続すると、ミキシングコンソールはレンダラーで現在アクティブな入力構成を受信し、マスター出力セクションのメインのミキシングコンソールUIとド



ロップダウンの両方で、コンソール出力パッチにすべてのチャンネルの名前と番号を表示します。

- Pyramix / Ovation からレンダラーへのパッチは簡単に行えます。
- オブジェクトバス：
 - Pyramix / Ovation のオブジェクトバスのマスター出力は、Renderer Object にパッチしてください。オーディオが通ると、Renderer Room ディスプレイに緑色で表示されます。
 - Pyramix / Ovation Divergenceパラメータは、Atmos Objects Sizeパラメータにマッピングされます。
 - Pyramix / Ovation UIでオブジェクトバスが無効になっている場合、このバスのオブジェクトはAtmosレンダラーから削除され、オブジェクトはPyramix / Ovation Bedsで内部的にレンダリングされます。
 - 注：このサポートは、他のワークステーションで見られるものと同等です。
- **Beds busses (Pyramix / Ovation General Mixing Busses):**
 - Object Bus を除くPyramix / Ovation の General Mixing Buss の出力は、任意のRenderer Beds にパッチできます。この場合、レンダラーには何も表示されず、オーディオ信号がレンダラーのチャンネル入力ディスプレイに表示されます。
 - Object Bus を除くPyramix / Ovation の General Mixing Buss の出力は、任意のRenderer Beds にパッチできます。この場合、レンダラーオブジェクトはVirtual Speaker（仮想スピーカー）として使用され、レンダラー ルーム ディスプレイに青色で表示され、チャンネルのタイプに応じて事前に定義した位置に配置されます。
 - Note: Wide Left と Wide Right のスピーカーはVirtual Speakers Objectとしてのみパッチできます。これらは Atmos Beds ではなく、オブジェクトとしてマップされなければなりません。
 - Note2: Top スピーカーも Virtual Object としてパッチされなければなりません。”オフィシャル”な7.1.2 Atmos Bed も2つのTopスピーカーを持っていますが、これらのチャンネルはサラウンドのみのTopスピーカーです。つまり、Top/Front または Top/Rear の信号は区別できず、フロントからリアに完全にレンダリングされます。このため、トップ/フロント、トップ/サイド、トップ/リアのスピーカーを適切に区別する唯一の方法は、Atmos Connectを使用してそれらを仮想スピーカーオブジェクトとしてマッピングすることです。
 - Note3: レンダラーベッド (L、R、C、Ls、Rs、Sl、Sr) に”公式”なチャンネルを持っていないスピーカーは、ベッドチャンネルまたは仮想スピーカーオブジェクトとしてマッピングできます。Atmos Mastering / Production Suite のレンダリング 最終結果は、シアターまたはホームでの最終レンダリングと異なる場合があります。
 - Note4 : LFEは常にBedsチャンネルにマッピングする必要があります。



New Atmos Speaker Sets:

Dolby Atmos for Music のSpeaker Sets (9.1, 9.1.2, 9.1.4, 9.1.6) をサポートするためにSpeaker Channel Type のリストを刷新しました。

- Wide Left, Wide Right を加えました。
- Surround Left Center, Surround Right Center はリストから無くなりました。
- Dolby Atmos 9.1, 9.1.2, 9.1.4, 9.1.6 Speaker Set をサポートしました。
- Auro 7.1.4, Auro 13.1, THM 12.2 のSpeaker Set が若干変更になりました。

Improvements:

Mixer:

Bus Sends

- ミキサーのAux /グループバスのセンドゲインが+ 12dBまで上がるようになりました。
- Sendレベルが0 dBを超えると、dBテキストインジケータースライダの両方が明るい赤に変わります。

Bus Trims

- すべてのバストリム ゲインが+ 20dBまで上げられるようになりました。
- トリム値が0 dBを超えると、dBテキスト インジケータースライダが明るい赤に変わります。
- トリム値の左側をダブルクリックするとミュートにリセットされ、右側をダブルクリックすると0dBにリセットされます。

Room: Import / Export a Custom sources x, y, z coordinates and gain.

カスタムバスを作成した場合に、*Save Room* と *Load Room* ができるようになりました。別のPMXまたはOvationセッションとの間でエクスポート/インポートすることもできます。

#	Type	Custom Name	X	Y	Z	Gain	Rcov
1	Left	painting	-11.000	-22.000	8.000	3.0 dB	
2	Center Left	canape	-11.000	-7.000	0.000	0.0 dB	
3	Center	foot rest	5.000	-4.000	0.000	6.0 dB	
4	Center Right	Sofa right	11.000	-9.000	33.000	0.0 dB	
5	Right	lamp side	-22.000	-2.000	0.000	5.0 dB	
6	Side Left	carpet	-2.000	6.000	0.000	0.0 dB	
7	Side Right	window right	22.000	0.000	0.000	0.0 dB	
8	Surround Left	my left side	-22.000	22.000	15.000	0.0 dB	
9	Surround Right	my right side	22.000	22.000	7.000	-2.0 dB	
10	Top left	alarm	2.000	-22.000	22.000	0.0 dB	
11	Top Right	nail	22.000	-2.000	22.000	8.0 dB	
12	LFE	LFE	17.000	70.000	2.000	0.0 dB	



Note : Mixer Room Settings の Gain は、サイズを設定した場合にのみサポートされており、Virtual Room では機能しません。

Dual Pan modifiers の変更

- White sends をダブルクリックするとFront-Leftに送られます。
- Red sens をダブルクリックするとFront-Rightに送られます。
- Speaker sends をダブルクリックするとWhiteが移動します。
- Ctrl キーを押しながらSpeaker sends をダブルクリックするとRedが移動します。

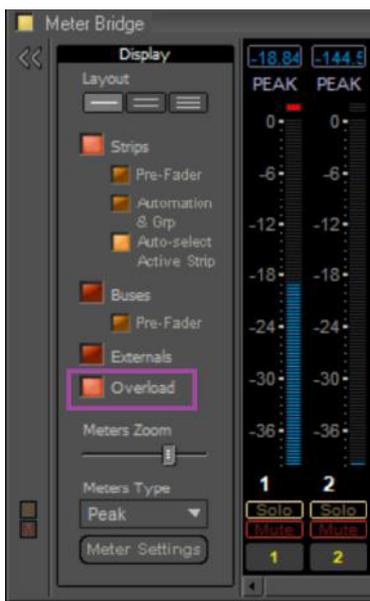
Send Modifier

Ctrl キーを押しながら Send をEnableにすると、0dBからMuteにリセットされます。

Meter Bridge

新しいOverloadの設定

Overloadピークは、（ミキサーと同様）P キーを押すとリセットできるようになりました。



Album Publishing

DiscWriteとPyramixに 5.1.4 ターゲットが加わりました。これは以下のフォーマットに使用できます : WAVE, FLA, AIFF, MTFF

ファイルフォーマットのまとめ

File Format	最大チャンネル数	対応している最高サンプリング周波数	使用できるプリエンコーディングビットレート
WAVE	8 (と 5.1.4)	352.8	16 / 24 / 32FP
AIFF	8 (と 5.1.4)	352.8	16 / 24 / 32FP
MTFF	6 (と 5.1.4)	352.8	16 / 24 / 32FP
PMI	2	44.1	16



Flac	8 (と 5.1.4)	352.8	16 / 24
Ogg Vorbis	128	192	16 / 24 / 32FP
MP3	2	48	16 / 24 / 32FP
AAC	48	96	16 / 24 / 32FP
DSDIFF	2 / 5 / 6	DSD64 to DSD256	1bit
DSF	6	DSD64 to DSD256	1bit

警告：サードパーティのアプリケーションはデフォルトの制限があるためこれらのファイルをネイティブとして読み取ることができない場合があります。



RAVENNA ASIO Driver v13

ST-2022-7 をサポートしました。

Merging Audio Device (MAD) リリース予定

新しい ASIO RAVENNA/AES67 デバイスはマルチASIOクライアントのサポートとWDMサポートを行います。この新しいデバイスドライバを使用すると、ASIOを実行する複数のアプリケーションを同じシステムで同時に起動して同じサンプリングレートを共有し、同時にWDMを実行する複数のアプリケーションを同時に起動して、独自のサンプリングレートをASIOサンプリングに自動的に変換できます。これにより、Windowsシステムサウンドと任意のアプリケーション（Spotify, YouTube, PCサウンドファイルなど）をASIOアプリケーションとともにモニターできます。

MADの詳細については以下のオンライン書類を御覧ください。

<https://confluence.merging.com/display/DSI/MAD+Docs>

- 2つのモードがサポートされます。
 - General mode (Anubis, Hapi, Horus などのPro用に使用)
 - NADAC mode (HiFi用)
- マルチクライアントASIOとホストのサポート
- ASIOクライアント間のブリッジチャンネルサポート
- WDMサポート
- WDMとHostのブリッジチャンネルをサポート

Note : 一度に1つのサンプリングレートをサポートします (デフォルトはホストのサンプリングレート)。WDMではSRCをサポート

MAD Infrastructure Pack (PSO-MAD-INF) は以下をサポートします :

- Virtual Machine サポート
- ST2022-7 サポート
- NMOSサポート

ANEMAN 1.2.3:

ANEMAN v1.2.3 リリースノート :

- Dante SAP のプラグイン (ベータ版) が Plugins Manager でダウンロードできます。
- ZMANの2022-7サポート
- Staticサービス (ベータ)
- Custom Multicast アドレスレンジ サポート (ベータ)
- ストリーム管理の改善
- Mergingデバイスのディスカバーとあんディスカバー時間の改善
- 4K ディスプレイ解像度をサポート
- デバイスが取り外された場合の問題を修正
- あるデバイスがMergingデバイスとして表示されないタイムアウトの問題を修正



- 信頼性の向上

重要 : ANEMANは、インストーラーで提供されます。

<https://www.merging.com/products/aneman> から最新のANEMANをダウンロードしてインストールしてください。

警告 : RAVENNA Easy Connect は、MERGING + ANUBISをサポートしていません。Anubis の AoIP ネットワーク接続を管理するには、ANEMANを使用してください。